ウ メ ・・・

立春を過ぎると、この団地にもじわりじわりと春の息吹が訪れてきます。その第一陣が管理事務所前の「青軸梅」です。花の付く枝とガクが緑色なので、花が大変清楚に見える逸品です。品種は，正確ではありませんが恐らく「月影」でしょう。ネーミングも素敵です。

ウメは、バラ科ウメ属の落葉小高木。高さは３～１０ｍ。中国の四川省から湖北省あたりが原産地と言われています。日本に伝わった時期は不明ですが、奈良時代の遣隋使か遣唐使が中国から持ち帰ったとの説が有力です。その頃はサクラより愛でられており、万葉集では百首以上が詠まれ、その数は、植物ではハギに次ぐ多さです。

このように，古くから日本人に親しまれてきた植物で，実を食用にする実ウメと，観賞用の花ウメに大きく分かれます。花ウメは早春を代表する花として，各地の梅園などで梅見が行われますが，サクラとちがって，咲き方も散り方もゆっくりとしたペースで春の訪れを感じさせてくれる花です。

実ウメは２～３月に，白か淡いピンクの，香りのよい花が咲きます。そして，６月頃に実が大きく黄緑色に育ち，さらに成熟してくると赤く熟します。そのために，「梅雨」の名の由来として，梅の実がなる頃に雨が多いからだという説もあります。ついでながら，梅の字に「母」の字を含んでいますが，中国では「つわり」の時に梅の実を食べる習慣があるからだとか，本当かしら。

果実はさっぱりとした酸味が好まれ，梅干しや梅酒，梅酢，梅漬けにされる他，いろいろな料理に利用されています。また，薬用としても，昔から用いられてきた。クエン酸を多くふくんでいるので，食欲増進や疲労回復，殺菌に効果があり，また，血をきれいにするはたらきもあります。しかし，熟していない青い果実には有毒な成分がふくまれているので，生食は避けてください。